

宮城学院女子大学

Partir

[パルティール]



あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



- 01 誌上セミナー
南アジアの文化や社会を学ぶ
異文化理解と自己実現力を育む
- 05 学問へのいざない
「アメリカ文学を通じて文化の偉大さ」を学ぶ
「まちづくり・都市デザイン」を学ぶ
- 07 特集
2020年度学生生活活動のご紹介
- 09 ACTION
躍動するMG生
- 11 My way M G way
卒業生の仕事場訪問
- 13 サークル紹介
- 14 CAMPUS NEWS
- 15 MG Archives / 放送部インタビュー

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

MG archives

感染症対策における宣教師ファウストの働き

宣教師アレン・K・ファウスト（後の宮城女学校第6代校長）は、1900（明治33）年の来日以降、当時結核大国であった日本の現状に心を痛め、すでに取り組んでいた在日外国人の結核予防対策に加えて日本人に向けた活動も開始しました。「結核予防思想普及会」を組織し会長となると、幻灯機（スライド映写機）を自ら購入し、各地で映写・講演会を開催しました。ファウストのこの活動は日本の感染症対策の先駆けとして大きな役割を果たし、1913（大正2）年に「日本結核予防協会」を設立すると最初の結核療養所（民営）を建設、そして1918（大正7）年「結核予防法」の成立へと繋がり、結核病減少に貢献したのです。



①若かりし頃のファウスト ②日本家屋として造られたファウスト記念館
(1階：裁縫室/2階：作法室、同窓生のための集会所)

これらの社会福祉活動と、校長としての在職17年を称え、宮城女学校のキャンパスには記念館が建てられました。

(宮城学院資料室)

放送部 Interview

「皆さん、おはようございます！教室に入る前には、手指の洗浄、あるいは消毒を心がけてください。…」11月から構内に響き渡る新型コロナウイルス感染防止対策のアナウンス。実は放送部の学生が担当しています。どんな気持ちで取り組んだのか、代表の下山千晴さん（人間文化学科2年）と土方茉優さん（食品栄養学科2年）に聞いてみました。



人間文化学科2年
下山千晴さん

食品栄養学科2年
土方茉優さん

下山さん 大学祭などの学内イベント以外でアナウンスの依頼を受けたのは初めてです。教職員の方がアナウンスするのではなく、私たち学生に任せてくれるんだと思い、責任を感じました。これまでの私たちの活動を見ていてくれたらいいなと思い、嬉しかったです。

土方さん 私は正直、「なぜ突然放送部に依頼を？」という気持ちでした（笑）。

下山さん 部としては、あれこれ考えるよりも、「とりあえず皆でやってみよう！」という雰囲気でしたね。原稿は授業前後やお昼休みなど6パターンあったので、対応できる人から録っていました。

土方さん 私は土曜日を担当しました。録音したときは「声のトーンが暗くならないように、明るく」と心がけていましたが、実は土曜日の授業を取っていないので、自分のアナウンスを聴けていないんです。

下山さん 私は平日を担当したので、先生や友人には「下山さんの声だよ？」と言われて驚きましたが、「聴かれている」ということは「伝わっている」ということだと実感しています。コロナ禍でいつもの活動ができないなか、貴重な機会でした。



南アジアの文化や社会を学び 異文化理解と自己実現力を育む フィールドワークを通じて国際的な視点を磨く

海外文化への興味関心から
八木ゼミを志望

八木 私は文化人類学が専門で、北インドの農村でジェンダー研究を行っています。



八木 祐子 教授

今日は、3・4年生と修士2年のゼミ生に集まっていたいただきました。このゼミでは、インドを中心にネパール、ブータン、バングラデシュなどアジアの文化や社会、ジェンダー問題について研究しています。実際に現地へ赴くフィールドワークや、歴代のゼミ生たちの卒業論文集、各種文献の講読を通じて理解を深めていきます。在学中に留学したり、卒業後にJICAや日本語教師として海外で活躍する学生が多いことが特徴です。海外文化に興味を持ち、当ゼミに入る学生が多いと思いますが、皆さんがこのゼミを選んだ理由を教えてください。

八重柏 私は学生による自主活動の国際支

援団体「Triangle」に所属していたので、顧問の八木先生とお話する機会は

もともと多かったのですが、決め手となったのは授業でインドの伝統医学「アーユルヴェーダ」が取り上げられ、興味を持ったことがきっかけです。

伊藤 私は3年生まで西洋哲学のゼミに所属していたのですが、漠然と「このまま西洋思想だけを学んでいていいのか」と疑問を持っていました。そこで八木先生が開催されている自主ゼミに参加してみたところ、東洋思想の奥深さに感銘を受け、この学びを深めたいと思いました。

横澤 八木先生には1年生の頃からお世話になっていて、八木ゼミに入ることは最初から決めていました。加えて1年生の時に大学生訪韓団として韓国の日本語学科の大学生と交流を行い、日本語教育に携わるとい夢を持ったこと、国際交流基金アジアセンターの「日本語パートナーズ」として行ったインドネシアにも興味が出たことで、やはりアジ

アのいろいろな国を自由に研究できるのは八木ゼミだと思い、選びました。

森 八木ゼミを選んだ理由は、サリィを着てみんなで写真が撮れる、カレーが食べられる…という単純な動機もありますが、最も大きな理由は、仏教発祥の地であるインドについて学べることです。大学で宗教学を学ぶうちに、仏教に強く惹かれ、もっと学びを深めたいと思いました。

千葉 私はもともと教育に興味があり、英語や数学などの教育が進んでいるというイメージがあったインドに行つて、現地調査で詳しく調べてみたいと思いました。研究を進めていくうちに興味の方向が変わってきて、今はアジアの教育にまつわるさまざまな問題などについて調べています。

女性問題や教育など それぞれのテーマを深める

八木 皆さんは3年次前期から自分の興味

学芸学部 人間文化学科

八木 祐子 教授

[大学院 人文科学研究科
人間文化学専攻]

八重柏 明葉さん

[学芸学部 人間文化学科]

伊藤 慧さん

横澤 萌佳さん

森 香歩さん

千葉 嘉乃さん



関心に沿ってテーマを選択し、研究していますね。それぞれが取り組んでいる、またはこれから取り組もうとしている研究テーマについて教えてください。

八重柏 私は、インドの女性の月経について勉強し、修士論文を書いています。インドの女性たちにとって、月経とはどんな存在で、どんなルールがあるのか、月経中はどうのように行動しているのか、日本との違いや、使われている生理用品についてなどを調査しています。このテーマに至った理由は、学部生の時にインド人の健康観の変遷について現地調査を行い、論文を書いたことがきっかけでした。月経はインドの女性の健康観にも密接に関わるテーマであり、日本との違いが如実に現れる分野でもあるため、研究しがいがあると思いました。

伊藤 私はブッダの教えについて研究しています。ブッダの教えを記したお経は世界中で読まれています。その中でも最



も古い仏典「スッタニパータ」について分析し、卒論を書いているところです。具体的には、日本語訳を読み込み、さまざまな論文を参考に考えをまとめています。さらに、現状の世界情勢も踏まえて、コロナ禍でブッダの教えがどのように活かせるか、どれほどの普遍性を持っているのかも分析したいと考えています。

横澤 私が卒論のテーマにしたいと考えているのは、インドとインドネシアの日本語教育です。私自身、韓国語が喋れるようになったのはドラマの影響が大きいです。



八重柏 明葉さん

将来的に日本語学習者に向けて日本のアニメやドラマなどをベースにした日本語教育コンテンツを作りたいと思っています。そのため、まずはどの日本のサブカルチャーが人気なのか、どんな学習方法で語学を学んでいるのかを国別に調査する予定です。

森 八木ゼミを選んだきっかけでもある仏教について研究したいと思っています。仏教の魅力はブツダの教えにあります。自分の心に最も響いたブツダの教えについて宗教学の観点から掘り下げていきます。

千葉 私は今、ネパールの女性の人身売買の問題について調べています。文献を探す中でテーマ自体の難しさも感じていますが、頑張つて研究を進めていくつもりです。このコロナ禍で、女性たちを取り巻く社会状況も変わっているとと思うので、そこも含めて考えていけたらいいと思います。八木ゼミは幅広い分野の勉強を



森 香歩さん

している人が多く、発表や議論の場がとても多いゼミでもあります。みんなとディスカッションをしていると、異なるテーマでも共通点に気付いたりして、そこからさらに学びが深まっていくのを実感できます。

学内外問わず学ぶ場所を広げ 価値観を育てていく

八木 このゼミは花見や七夕サリーツアー、大学祭への参加など、学生同士や卒業生



伊藤 慧さん

科に関係なく参加することができ、非常に実のある学びを得られます。3年生の時、自分の人生や進むべき道に迷いが生じていたのですが、自主ゼミでさまざまな分野を学ぶ人と交流できたことで、道が拓けたように思います。

横澤 私は、八木先生の勧めで参加した学外での学びに大きな影響を受けました。もともと国際文化を学ぶために大学に入ったのですが、1年次は必修科目ばかりで、英語を本格的に学びたい私はジレンマを抱えていました。そこで八木先生



千葉 嘉乃さん

と関わるイベントも活発です。2020年は残念ながらコロナ禍で各種中止せざるを得ませんでしたが、今後も、ゼミの時間以外でも学ぶ機会をたくさん設けたいと考えています。皆さんはこれまでのゼミの活動を通して、印象に残っていることはありますか。

八重柏 八木ゼミと言えば、やはり4年に1度のインド実習です。コロナ禍でなければ今年度はみんながインドに行ったはずなので、とても残念です。私は2016年のインド実習で、現地の大学生と協力



横澤 萌佳さん

に相談したところ、東北大学が主催する、世界中から若い研究者たちが集まる災害科学研究会への参加を勧められました。そこでの公用語は当然英語で、研究者たちのレベルの高さに衝撃を受けました。受け身がらだった大学のあらゆる授業も、国際的な関わりを広げるために必要な知識だと気付き、大学で学ぶことへの意識が変わりました。

森 私は教職を目指しているのですが、八木ゼミではレジュメを作って一人ひとり発表する機会が多いので、将来に役立つ経験だと感じます。単にレジュメを読むだけではなく、内容を自分なりにまとめ、考えながら話すように心がけています。発表の後で行う質疑の時間も、いろいろな意見を聞くことができるので勉強になります。

千葉 私も森さんと同じく、問題に対して考えていることをみんなで議論する時間が好きです。八木先生の自主ゼミに昨年



初めて参加したのですが、先輩方の卒論発表を聞く場はなかなかないので勉強になりますし、質問することで新たに気付くこともあります。自分の中で固定観念がなくなっていくというか、価値観の引き出しが増えていくのを感じます。

八木 コロナ禍で移動や交流が制限され、例年よりも苦勞の多いゼミ活動になっていますが、諦めず自分が納得するテーマで論文を書いてほしいと思っています。大学時代は人生で一番人間的に成長する時期だと思うので、懸命に書いた論文は今後の自分の原点になるはずです。ぜひ、自分の目で見て、自分の頭で考える力身につけていただきたいと思いますね。



「まちづくり・都市デザイン」を学ぶ

生活科学部 生活文化デザイン学科 佐藤 芳治 准教授



「豊かな暮らしとは何か」を考え、まちづくりや生活文化への理解を深める授業を担当しています。

まちづくりの歴史に始まり、今の日本ではどのような法律に基づきどんなまちがつくられているのかを学ぶ都市計画論、日本の家づくりの変遷や、「遊び環境」をテーマに幼少期の「遊び場」を思い出し、心象風景を分析する授業などを行う住生活文化論、設計製図や自分の住む地域の手書き

**自分の体験に紐づく授業で
まちづくりや生活文化を学ぶ**

私は常に、学問のための学問ではなく、実践の中で何かを見出してほしいと思っています。まちづくりは「人」です。さまざまな人と良い関係を構築し、議論しながら目標に向かっていく過程を体験してもらいた

**地域と密接に関わる
実践的な学びを重視**

マップを作るデザイン演習などです。前期はオンライン授業でしたが、学生たちはとても真面目に取り組んでくれました。後期からはようやく対面での授業ができ、ホッとしています。

まちづくりや都市デザインは、ハードを作るといふ点では法律や制度が絡む難しい分野です。授業では、なるべく学生の生活体験に紐づいた理解しやすいテーマを取り上げ、将来役立つ知恵や考え方を伝えたいと考えています。

め、ゼミでは学外へ出ていくことが多いですね。今年度のゼミでは、「定禅寺通活性化検討会」に加わり、9月に地元の方々とプチマルシェを開催しました。ゼミ生はインフォメーションブースを担当したり、子どもたちにテラリウムづくりワークショップを行ったり、来街者の調査なども行いました。こうした地域主体のまちづくりに参加することで得られる学びは大きいので、来年度も引き続き関わっていったらと考えています。

住民主導のまちづくりに、「やらされている」人はいません。みんな自分のまちをもっと良くしたいと思っ

て取り組んでいます。だから、関わることで「楽しい」という感覚を持てるかどうか重要です。楽しいと活動が継続し、まちがどんどん良くなっていきます。ぜひその魅力を知っていただきたいですね。

Profile

奈良県出身。1997年に東北大学工学部建築学科都市デザイン研究室卒業。2002年にNPO法人「都市デザインワークス」を設立。理事・事務局長として市民提案型まちづくりの実践・支援を行う。2020年4月から現職。○信条は「楽しいは継続の力なり」

私のおすすめ本

**まちづくりの仕事ガイドブック：
まちの未来をつくる63の働き方**

著：豊庭伸、山崎亮、小泉 瑛一

昨年「まちづくり」は、色々な意味を持って使われる言葉となりました。この本では、まちづくりに関する仕事の幅広さや多様性がわかりやすく解説されています。まちづくりに携わる仕事がしたいという学生に、入門編として読んでほしい1冊です。



これが学びのツボ!

大学の4年間は自分の可能性を伸ばす時間だと思えます。授業以外にも学びの場はたくさんあります。いろんなことに興味を持って、学生時代にしかできないことにぜひ挑戦してください。



「アメリカ文学を通じて文化の偉大さ」を学ぶ

学芸学部 英文学科 田島 優子 准教授

**作品をじっくり講読し
行間について理解を深める**

専門はアメリカ文学です。19世紀の作家であるナサニエル・ホーソーンを主に研究していますが、授業ではヘミングウェイの短編などを扱っています。ヘミングウェイの作品は比較的わかりやすい英単語で構成されているため、学生でも読みやすいからです。ハードボイルドと呼ばれる彼の文体は感情描写を一切排除しています。したがって、登場人物の心情を理解するには、情景や行動などから行間を読む作業が必要です。これがとても難しく面白いです。「文章は易しいのに何を表現しているのかわからない」という不思議な感覚です。

授業では、一つの作品をみんなで緻密に講読し、ディスカッションを行い、レポートを書きます。本学の学生たちは、歴史的・階級的な問題

**「若い文学」ならではの
魅力に満ちあふれている**

子どもの頃から小説が好きでしたが、九州大学の恩師との出会いをきっかけにアメリカ文学を専門とすることを決めました。アメリカ文学は歴史にとっても若い文学で、最初の小説が書かれたのは18世紀末と考えられています。大作家として一般に知られている作家の数も少ないでしょう。しかし、若い文学だからこそ、エネルギーが勢いがある。イノセントな登場人物のアメリカン・ドリームとその崩壊を描いた作品が多く、そのダイナミクスは読んでいてど

に気づくというよりも、人間関係の感情を読み解く力に長けていますね。女性の視点で描かれた作品に興味を持ち、そこから学びを広げる学生もいます。



こか清々しさすらあります。アメリカ文学が持つ魅力を、多くの人に伝えていくことが自分の使命であると思っています。

純文学は堅苦しい、難しいというイメージがありますが、数百年に渡って読まれてきた作品というのは、やはりそれだけの価値がある、偉大なものなのです。学生たちにはぜひ「自分にわからないものは面白くないもの」と決めつけずに、歴史と文化に敬意を払い、謙虚な姿勢で文学作品への理解を深めてほしいと思います。

Profile

佐賀県出身。2013年に九州大学大学院人文科学府 言語・文学専攻修了。2013年4月から現職。2019年はアメリカのマサチューセッツ州にあるスミス大学で1年間の海外研修を行った。○信条は「他者の考えを尊重すること」

私のおすすめ本

グレート・ギャツビー

著者：F・スコット・フィッツジェラルド

若くして富を得たギャツビーという男の「アメリカン・ドリームと失脚」を描いた、アメリカ文学を象徴する作品。1925年に発表されてから今なお多くの人に愛され続けており、ある種の「敗北の美学」を感じられる秀逸な物語です。



これが学びのツボ!

文学は、今の実利的な社会ではただちに役に立つものではないかもしれませんが、役に立つことだけがすべてではありません。文学は人生を豊かにし、人としての成長を促してくれます。

プロジェクト「新型コロナウイルス」

学科・専攻



養護教諭や保健体育科教員を目指す教育学科健康教育専攻の学生たちが立ち上げたプロジェクトです。健康教育の専門家として新型コロナウイルス感染症をしっかり理解し、各学校の取り組みや課題、国・地域による対応の違いなどを検証し学びに活かします。

12月8日には東北医科薬科大学・賀来満夫先生（感染症学教室特任教授）をお招きし、ウイルスの特性や過去の感染症との違い、日常生活での注意点など、多くの資料を用いてお話しいただきました。

「今、音楽と共に生きる」

学科・専攻

～音楽を学ぶ学生たち、宮城・仙台からの挑戦～



「密」を避けなくてはならないという、合唱団とオーケストラにとって極めて厳しい環境の中、本学音楽科の学生と宮城学院の教職員（有志）がルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン「合唱幻想曲」の多重録音・録画に挑戦しました。動画は多くのメディアでご紹介いただき好評を得たため、当初の予定を延長し3月31日までの配信が決定しました。本学ウェブサイトの音楽科ページよりご覧いただけます。

Heartful Sweets

MG-LAC



ドナルド・マクドナルド・ハウスさんだいで、季節ごとのお菓子作りイベントを開催しています。配布するレシピカードには材料のほかに簡単な栄養成分を載せているので、子どもたちも家族と安心して作ることができます。コロナ禍でも毎月レシピを考え、カードを郵送しました。

MSJC

MG-LAC

「宮城県のプロスポーツチームを盛り上げる」がコンセプト。2020年に発行した冊子では東北楽天ゴールデンイーグルスのチームスタッフを訪問し、球団への想いや仕事内容、スポーツ業界への就職を目指す学生へのアドバイスなどを取材しています。



リエゾン・アクション・センター (MG-LAC) とは？

本学の「自主の精神」のもとに提供している、自主的・実践的な学び、社会貢献の場です。学部学科を越えた学生同士、学生と教職員、大学と地域社会がつながり、協同して活動を創っていくという意図と願いが込められています。

2020年度

学生活動のご紹介

学科・専攻の取り組みやリエゾン・アクション・センター (LAC) のプロジェクトなど、新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも様々な方法で展開した学生活動を紹介します。

さくらレオクラブ

MG-LAC

仙台若者
アワード
2020

最優秀賞

仙台青葉ライオンズクラブがスポンサーとなり設立されたボランティアクラブです。継続的に行っている活動のひとつが宮城県立こども病院との交流活動ですが、コロナ禍で病院への訪問が難しくなり、オンライン交流を提案しました。機器が不足しているためクラウドファンディングを活用したところ目標額を上回る寄付が集まり、17台のiPadを病院へ寄贈することができました。この取り組みは「仙台若者アワード2020」で高く評価され、最優秀賞に輝きました。

他にも「ふうとばんく東北AGAIN」のフードパントリー事業への協力など、地域の現状やニーズを捉えた活動を行いました。



英文学科2年
田中友理さん

私たちのやりがいはボランティア先の方々の笑顔や感謝の言葉。今年度は従来の活動が相次いで中止となりましたが、iPad寄贈やフードパントリーはコロナ禍だからこそ取り組めたことです。活動の幅が広がり、ステップアップできたと感じます。

大原小学校ボランティア

MG-LAC



2011年の東日本大震災をきっかけに発足した、子どもたちの「心の復興」のためのプロジェクトです。2020年は、写真やクイズなどが入った「大原小学校オリジナルカレンダー」を作成し学校へ送りました。学年や特別支援教室ごとに内容を変え、すべての子どもたちが楽しめるようになっています。

また、オンラインでのクリスマスイベントを開催し、工夫を凝らした内容が子どもたちに大好評でした。



私は大原小の出身で、母校で活動できるということでこの団体に興味を持ちました。生徒数が少ない学校なので、子どもたちにとっても、色々な人とコミュニケーションを取れる有意義な機会だと思っています。今後は地域の方々も巻き込んだ活動をしていきたいです。



教育学科
児童教育専攻3年
木村紀香さん



リスト作曲「ピアノ協奏曲
第1番変ホ長調」を演奏

音楽科4年・庄子三未さん 仙台フィルハーモニー管弦楽団の文化庁委託事業（令和2年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業）である若手演奏家のためのコンサート「新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズ第56回 仙台」に、音楽科4年・庄子三未さん（器楽コースピアノ専攻）が出演しました。

このコンサートは音楽文化の振興を目的として、将来性のある優秀な新人演奏家にプロオーケストラとの協演の機会を提供する事業です。オーディションを経て出演者が決定します。

庄子さんは学内外でのイベントのほか、3年次には米・カーネギーホールで演奏を披露するなど、様々な経験を積み重ねています。今回のコンサートについては、「大変な状況の中ではありませんでしたが、多くの方の支えがあり、素晴らしい機会をいただけたことに感謝しています。今後も音楽を楽しみ、追求していきたいです」と話していました。

（写真提供・仙台フィルハーモニー管弦楽団）

音楽科4年・庄子三未さん 仙台フィルと協演

躍動するMG生!

学内はもちろん、さまざまな舞台で活躍するMGUの学生たち。

ここでは、そんな彼女たちの様子を紹介します。

Action



Zoomでのプレゼンテーション



開発商品の「豆富天」と「堅豆腐あいす」

現代ビジネス学科石原ゼミ「南部の堅豆腐プロジェクト」が多方面で表彰

現代ビジネス学科石原慎士ゼミナールでは、旧八戸藩と周辺地域（青森県三八地域と岩手県北地域）に伝わる堅めに造られた豆腐を「南部の堅豆腐」と名付け、豆腐店・百貨店・食品製造事業者・飲食店とともに調査活動やブランディングに向けた取り組みを推進しています。

このプロジェクトが、復興庁が設立した「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2020で「わきたつ東北賞 東北経済連合会」を受賞しました。このコンテストは、東北地方における課題と解決のためのビジネスモデルのユニークさ、地域への貢献度等の観点から選定されるものです。選考ではZoomによるプレゼンテー

ションが行われ、地域の潜在的な資源を活用した貢献度の高さが評価されました。また、宮城県が主催する第45回宮城県水産加工品品評会でも、プロジェクトの「環で開発した揚げかまぼこ」「豆富天」が「宮城県商工会議所連合会長賞」を受賞しました。この商品は石巻市の水野水産株式会社ならびに岩手県洋野町の株式会社館豆富店と連携して開発し、北東北地域のスーパーマーケット等で販売されています。

これらの賞を受け、石原教授は「今後も学生たちとともに東北地方の産業活性化に資する活動を推進していきたいです」との意気込みを語りました。

仙台市震災10年特設サイトでFASの座談会を公開中

学生団体「Food and Smile!」（通称FAS）のメンバーのほとんどは東日本震災を経験した食品栄養学科の学生です。「災害時の食に関する問題を解決すること」を活動目的に掲げており、地域の料理教室では、ライフラインを極力使わない・調理が簡単・子供や高齢者もおいしく食べられる、といった災害食レシピを考案し紹介しています。

仙台市の震災10年特設サイトのコンテンツのひとつ「想いつながる座談会」では、学生たちの震災経験や、FASの活動の経緯、これからの課題などを語り合いました。担当教員である食品栄養学科・丹野久美子准教授は「料理教室

やコンテストなど、これまで多くの機会を与えていただき、試行錯誤しながら活動してきまして、FASは地域に育てていただいています」と話しました。

また、災害食レシピの普及と併せて震災の記憶の風化防止にも寄与していると評価され、仙台市より「仙台市防災功労表彰」の感謝状が贈呈されました。



取材風景

は？
—— 飲食業界に就職を決めたきっかけ
 私は幼い頃から食べることが好きで、料理上手な母のおかげで食べ物の好き嫌いもなく育ちました。よく台所で母の手伝いをしていたので、料理をすること自体に興味を持っていました。大学時代のアルバイトでは接客の楽しさにも気付きました。もし働くなら、大好きな「料理」と「人」に関われる仕事がいい。そう思って、この業界を選びました。

—— 現在の仕事内容を教えてください。
 キッチンスタッフとして、材料の仕入れやメニューの仕込み、調理や盛り付けなどを担当しています。オーナーが実際に足を運んで学んできた米西海岸のカフェメニューを日本でも気軽に味わえるようにと、現地で直接買い付けした器具を使い、盛り付けにもこだわっています。



スタッフとのコミュニケーションや、先を読んだ行動を心がけている中澤さん。厨房でテキパキと動く姿が印象的だった。



店内はゆとりのある落ち着いた雰囲気。「学生やビジネスパーソン、子ども連れのお客さまなど、幅広い層に愛されているお店です」



看板メニューの「オープンサンドイッチ ムーブル」。トーストの上に、目玉焼きとカリカリのベーコン、ポテトがのった一皿。

大好きな料理に携わり 人を笑顔にできるような おいしいものを作り続けたい

HEY
 中澤 怜華さん



—— 就職して、大変だと思ったことはありませんか？

コロナ禍で営業自粛を余儀なくされた時期や、テイクアウトやデリバリーへの対応は大変でした。ですが、たくさんのお客さまの支えによって営業を再開し、継続することができています。オーナーがこれまで築いてきた人脈や信頼関係の賜物だと思うので、自分もそうなれるように頑張りたいです。

—— 仕事のやりがいはどこなところですか？

料理をすることが好きなので、材料を組み合わせて作る過程はもちろん、完成した時の達成感もあり、毎日とても楽しいです。また、「HEY」はオーブンキッチンなので、厨房からお客さまの顔が見える造りになっています。おいしそうに召し上がっているお客さまの笑顔を見ることが一番のやりがいですね。それと同時にお客さまからも厨房が見えるので、「見られている」こ

とを意識して緊張感を持って仕事をしています。

—— 学生時代の学びや経験で活かされていることはありますか？

調理実習では、和食や中華、洋食、行事食など、さまざまなジャンルの料理を学びます。家庭にはない調理器具を使ったり、大量調理も経験できるので、幅広い知識と技術を身につけることができました。また、盛り付けや提供温度のノウハウは、今のキッチン業務においてとても役立っています。

—— これからの目標は？

まずは「HEY」で料理の腕をもっと磨き、これからもずっとおいしいものを作り続けることです。さらに、大学で学んだ栄養学を学びなおし、スパイスやハーブの勉強もしたいと考えています。その知識を活かして、いつかお店のメニュー考案にも携わりたいです。

Profile 中澤 怜華さん

宮城県岩沼市出身。仙台南高等学校卒業。2019年3月宮城学院女子大学食品栄養学科卒業。イタリアンレストランや日本料理店などでの勤務を経て、同年12月にカフェ「HEY」のオープニングスタッフとして入店。主にキッチン担当を務める。

[取材場所]

HEY
 仙台市青葉区片平1-1-11 片平ビル1F

※撮影時のみマスクを外しました。



より良いキャンパスライフのため、学生目線でキャンパスのあり方を話し合う、『キャンパスの「あったらいいな」をみつけるワークショップ』を開催しました。

ワークショップで話し合う「理想のキャンパス」

「礼拝堂や図書館は他大学にも自慢できる素敵な場所」「学食がおいしい」といった魅力がある一方、「日当たりが悪く建物の中が暗い」「歩道が狭い」といった物理的な課題や、「集中できる自習室がある」といい、「他学科の取り組みを紹介するスペースを作るといいか」「レジャーシートの貸出などキャンパスの要素を取り入れたら、中央芝生広場をもっと活用できるのでは」といった空間作りに関する事など、様々な視点で意見が交わされました。

ワークショップは今後数回開き、集約した意見の実現に向けて取り組んでいく予定です。

生活環境科学研究所ミツバチ科学研究部門で開発している本学産ハチミツ・ミヤガクハニーを、12月5日にランチ仙台で開催された「ランチオーガニックマーケット」にて販売しました。種類は「百花みつ」「さくら」「クローバー・くり」「秋のはちみつ」「かえで」「とち・ゆりの木」の6つで、本学の自然の恵みや深みを楽しむことができます。

今回のイベントは1年生が中心となって取り組んでおり、販売には現代ビジネス学科の学生が協力し、別のエリアで開催した「水の森生きものふれあい講座」では教育学科幼児教育専攻の学生が解説を分担するなどの取り組みがなされています。



本学産ハチミツをランチ仙台で販売

あとがき

今号では特集として、コロナ禍でも精力的に活動した学生の取り組みを紹介しました。いつもなら秋から冬は役職交代の時期です。ある団体の代表学生は、「本当は次の代表に引継ぎをする時期だけど、後輩と活動する機会が少なかったから来年も代表を務めることになりそう。でもこの活動が好きだからしっかり責任を持ちたい」と話していました。自分たちにできることを、という気持ちで取り組んだ学生たちの1年。後輩たちはちゃんとその背中を見えています。

サークル紹介 01

おもちゃばこサークル

- 部員数: 18名
- 活動日: 不定期
- 活動場所: 学生センター 和室

子どもたちの笑顔のため、動画制作にチャレンジ

児童館や保育所で人形劇や読み聞かせなど子ども向けの公演を行っています。コロナ禍では依頼が減ってしまいましたが、他大学と協力し、人形劇や影絵などの動画を制作しました。この新しい形の活動は現在も進行中です。

ランチ仙台でも対面での公演の機会をいただき、感染防止対策のもと、読み聞かせやペーパースト（紙人形劇）を行いました。無事に実施できて安心しましたし、子どもたちも楽しんでくれました。

同じ夢を追う仲良しメンバー

公演が終わって、子どもたちが笑顔で帰っていく姿を見るとやりがいを感じます。保護者の方からも「楽しかった」という感想をいただいたことがあり、とても嬉しかったです。

サークルには幼稚園や小学校の教員を目指している学生が集まっています。みんな子どもが大好き。これからもレパートリーを増やして、より楽しんでいただける公演ができるよう頑張ります。



絵本「にじいろのさかな」を
もとにして影絵



ランチ仙台での
「ママカフェ」の様子



部長
鏑 晴菜さん
(教育学科
幼児教育専攻3年)

サークル紹介 02

アーチェリー部

- 部員数: 16名
- 活動日: 火・木曜日
- 活動場所: アーチェリー部射場

新入部員求む! 優しい先輩とコーチが待っています

先輩やコーチがとても優しく指導してくださるので、未経験でも問題なく楽しめます。他大学との交流も盛んな、和気あいあいとした部活です。

前期期間中は大会が中止になることも多かったため、各自自主トレをしていました。後期からは大会が開催されるようになり、例年通りの活動を再開しています。もっと新入部員を集めたいので、アーチェリーの魅力をどんどん伝えていきたいです。

仮装パレードは部活の一大イベント

2019年まで毎年行われていた大学祭前日の仮装パレードでは、メンバーそれぞれがテーマに沿った衣装で参加するのが恒例で、この日のためにみんな入念に準備をします。2019年のテーマは「昔話・おとぎ話」。とにかく気合がすごかった!

アーチェリーを通してたくさんの仲間に出会えました。メンバーも明るく楽しい人たちがばかりで、入部して本当に良かったです。



ミヤガク主催大会の景品は
たくさんのお菓子♪



思い思いの衣装で臨んだ
2019年の仮装パレード



部長
吉岡 美咲さん
(現代ビジネス学科3年)